

古い屋敷の秋月家、前の道。

やら尋ねている。

楓の胸には紐でつるした小さな鍵。

楓が突然前に手を出し大声で叫ぶ。

「呪われないか！」

○タイトル「故郷のみやげ」

○秋月家庭夕方

子猫を探している秋月楓。

楓「コタマ、コタマ」

植木の間からガサガサつと音がし、コ

タマを抱き、土や葉っぱだらけの性別

不詳者(明日実(25))が出てくる。

楓「（驚いて）だれ？」

明日実「ん（コタマを差し出す）」

楓「（受け取って）男？　女？」

明日実一見てわかんねえか？」

「しげしげ見て」わかんない」

明日実は胸を突き出して、オツパイを指さす。

「楓！」

庭に面した廊下を祖父の秋月宗助(62)が歩いて来る。

宗助「どちらさまだ？」

明日実「ご無沙汰してます」

宗助「……、明日実か？」

明日実「はい、先生」

宗助「……卒業以来だな」

明日実一随分お世話になりました」

「楓、だーれ？」

宗助「おじいちゃんの教え子じゃ」

「楓一女？」

宗助（笑って）多分な」

明日実一ひといな、先生」